

# 校長室から 令和元年10月29日

## 通信票『かけ橋』より

### 『自分の人生を楽しめている姿を見ていて、 それだけで安心です』

第2学期の生活が始まっています。台風等の影響で、学校が避難所になったり、校舎が痛んだり大きな影響があり、新人大会の日程も大きく変更になりました。そのような中でも、3年生からバトンを引き継いだ1、2年生が、頑張ろうとしていますし、実際に2年生には自覚ある行動が目立ってきました。これからも彼らの活躍や活動を見守っていきたいと思います。

さて、1学期最後の日に渡した通信票『かけ橋』が、保護者の皆様から担任に返却されています。「家庭から」のメッセージを読ませていただきました。担任に対する励ましや感謝の言葉も多く、保護者の皆様の温かいお言葉は、学校にとって何より嬉しい事です。心より感謝申し上げます。

そして、その中で、我が子に対する励ましの言葉等もとても印象的であり、とても嬉しく思いました。ある保護者の方がこんなメッセージをお子様を送っているのが目に止まりました。「自分の人生を楽しめている姿を見ていて、それだけで安心です。2学期も自分の計画をしっかりと立てて、突き進んでください。応援しています。」我が子に対する優しさ溢れるメッセージで、とても感激いたしました。私は、かつて、自分の子ども達の通信票にどんなメッセージを書いたのか、また自分の子どもの担任の先生にどんな言葉で感謝の気持ちを伝えたのか、と恥ずかしくなりました。しばらく眼にしなかった我が子の小中学校時代の通信票を見てみました。紹介した保護者の方のような、素晴らしいものではありませんでした。また、次のようなメッセージも心に浸みました。

### 『私は、学校が好きだという〇〇が大好きです 責任感、思いやり、それが大切な事だと思います』

素敵なメッセージだと思います。担任や学年、学校としても嬉しい言葉であり、何よりお子様が喜ぶますよね。私もこのメッセージを書いてくれた保護者の方と同様、思いやりや責任感を持って、成長していく姿が望ましいと思います。そして、自分が身に付けた学力や磨いてきた技能、人とのかかわり等をどのように社会に還元していけるかを考えられる人間になっていける事が大切なのではないかと思います。

保護者の皆様は、「子どもが育つ魔法の言葉」という本をご存じですか。2003～2005年頃に日本でもとても話題になった本で、ドロシー・ロー・ノルトとレイチェル・ハリスという方の共同著書です。この本で「子は親の鏡」という詩が紹介され、大変な話題になりました。私も深く感銘を受け、今も子育て(もう親から離れていきましたが)や学校教育の参考にしています。その中に下記のような文章があります。

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる 認めてあげれば、子どもは、自分を好きになる

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

叱りつけてばかりいると、子どもは、自分が「悪い子なんだ」と思ってしまう

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子になる

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

私自身、その通りだとは分かっている、なかなか思うようには実践できませんが、心に響く詩です。本日、ご紹介した保護者の方のメッセージと共通したものがあるように感じています。